

連携協力実習校での道徳授業実践の取り組み

宇都宮大学教職大学院生は、2月9日・10日に開催される宇大教育実践フォーラムに向け、教育実践プロジェクト発表の準備等に取り組み、あわただしく日々を過ごしています。そんな中、今年になって行われた連携協力実習校での院生の道徳授業実践の取り組みの一端を紹介したいと思います。

平成31年1月10日(木)、栃木市立大平中学校で道徳科授業実践研修会が開催されました。2年生のクラスでは現職院生と本校の教員がT.Tで、1年生のクラスでは学卒院生(1年)2名のT.Tで道徳授業を行いました。どちらも「海と空一極野の人々」(私たちの道徳 中学校:文科省)をもとに開発した映像教材を用い、主題名は「人間愛」です。特に、学卒院生2人はそれぞれの教科(英語、社会)の専門性を生かした指導を心がけました。以下、学卒院生の声を紹介します。

「先日実践した大平中での道徳の授業において、エルトゥール号事件というトルコと日本にまつわる話を題材に授業をデザインしました。生徒たちの思考の流れや、どのような疑問が出てくるかを予想し、また他者との対話を活性化する方法を時間をかけて考えていく。そして実践させていただくことで、『理論と実践の往還』という教職大学院の学びが大平中学校での授業に凝縮されていたように感じました。ご協力いただきました栃木市立大平中学校教職員の皆様、生徒の皆様にも心より感謝申し上げます。」(O院生)



「人間としての生き方について考えを深める時間である道徳は、本当に大きな可能性を持っていると確信します。日々の忙しさの中で時間に追われて生きる教師たちにとって、週に一度子どもたちと一緒に人生について考える時間があることは本当に意味があると感じます。もしかしたら、子どもたち以上に、教師たちにとって必要ある時間かもしれません。大平中学校での実践が、私にとっても道徳への関心や思いを変化させるきっかけになりました。これからより一層学び、実力も付けていきたいです。本当に、ありがとうございました。」(T院生)

平成31年1月15日(火)には、鹿沼市立北犬飼中学校の1年生のクラスで、道徳授業実践が行われました。学卒院生(2年)にとって、5回目となる今回の授業の教材は、「二つのことり」です。小学校1年生で用いられる定番教材です。これを中学生に投げかけるという新たなチャレンジです。主題名は「友達ってどんな存在?」です。当日は、本

校の先生方、現職院生、内地留学生、本学教員の数名が参観しました。

現職院生の感想です。

「小学校1年生の教材ですが、この時期の中学生、だれもが腑に落ちるテーマ(いやなのにいやだと言えない人間関係、助けたいのに助けられないもどかしさ、勇気がもてないもどかしさ、自分だけいいかっこできないと過剰に感じる年頃)がもりだくさんだったと思います。欲を言えば、『やまがらに会いに行ったみそさざいの気持ちや、やまがらの気持ち』や『やまがらやみそさざい、他の鳥たちはうぐいすのことを互いにどう思っているのか、本音とたてまえ』についてもっと話し合う時間があつたらよかったです。中学生でも十分話し合える教材だと思いました。」(U院生)

授業者の振り返りです。

「全員に感想を聞くという取り組みの楽しさをこれまで以上に実感した時間だったように思います。情報量の少ない教材から生まれてくる、子どもたちの豊かで自由な考え方には驚かされました。しかし同時に、教材研究のために何度も文章に触れているうちに文章の読み方が一辺倒になってしまっていることに気づかされた時間でもありました。生き生きとした子どもの考え方に対して、私の考え方はすでに輝きを失っているようなそんな感覚を持ちました。そう考えると、私がこの日用意していた発問は子どもたちにとってどうだったのか。果たして、私は子どもの思考に寄り添っていたのか。授業が終わった後は、いつも自分への問いが止みませんが、これを授業改善のチャンスと捉え、問いに答えていくことで成長していこうと思います。」(H院生)



(文責:和井内良樹)

「ESD(イー・エス・ディ) と SDGs(エス・ディ・ジーズ)」 教育実践高度化専攻教授 人見久城

英単語の頭文字ばかりですが、ご存じの方も多いと思います。ESDはEducation for Sustainable Development(持続可能な開発のための教育)、SDGsはSustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称です。2005～2014年が「国連ESDの10年」と設定され、ユネスコが主導機関となりました。日本でも、文部科学省、環境省、NPO等の支援によって、ESDにかかわる活動が学校教育の中に広がりました。2012年の国連会議において、2014年以降もESDを推進することが盛り込まれましたが、さらに2015年の国連総会で、「持続可能な開発のための2030のアジェンダ(課題)」が採択されました。アジェンダは17の目標から構成されています。この目標のことを「持続可能な開発目標(SDGs)」と呼んでいます。17の目標はロゴで表示されていますので、インターネットで探してみてください。SDGsの活動年は2016～2030年となっています。

先生方からは、「ESDにかかわってSDGsにまで取り組まなくてはならないのですか?」という疑問が聞こえてきそうです。これについては、文部科学省のパンフレット(*注)に、「全く新しいことを始めなくても、ESDに引き続き取り組み、より一層推進することが、SDGsの達成に直接・間接に貢献するものである」と述べられています。そして、「ESDの様々な活動が、国際的に整理された目標であるSDGsの各目標にどのように貢献しているのかを考えることは、言い換えればSDGsによって自分自身のESDの活動に新たな意義や価値付けを行うことであり、ESDの目標を明確化する方法の一つでもあります。」と続いています。新しい流れに沿うように相乗的に高めることが、ポイントと言えそうです。

ESDに熱心に取り組む横浜市の小学校で、昨年12月、研究授業を参観しました。同校の資料の中で特に印象に残った箇所は、「各教科等を横糸と考え、ESDの内容をクロスカリキュラムテーマとして縦糸と考えると、その交差したところに、環境教育、健康・安全教育、福祉教育、キャリア教育等の学習指導が成立します。」というものです。この文章は、多岐にわたる内容をカリキュラムとしてまとめる努力からにじみ出た言葉であると思います。続けて、「交差するすべての部分で学習が計画されるわけではなく、教科等の内容に応じて選択されます。」と記されていました。取組みを長年にわたって推進してきた校長先生は、私との意見交換の最後に、「SDGsは包括的な目標のため、そのままでは学校のカリキュラムに落とし込みにくいものです。これまでのESDの蓄積を発展させることが大切でしょう。」と締めくくられました。

(*注) 文部科学省/日本ユネスコ国内委員会(2018):ユネスコスクールで目指すSDGs 持続可能な開発のための教育
(<http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/pamphlet.html>)

《シリーズ:院生の声 ⑩》

小学校での実習を通して

3年前の「自分」へ

教職大学院での2年がもうすぐ修了します。この2年間、多くの先生や子どもたちに出会いお世話になりました。特に、連携協力実習校として2年間お世話になった宇都宮市立石井小学校では授業見学や授業実践などをさせていただき、授業者という立場ではなく子どもたちの様子を観察することができました。

小学校での実習では、授業や部活動を通していろいろな先生がいろいろな視点から生徒の成長を見ていこうとする中学校とは違い、担任の先生が一人一人の子どもたちと密接に関わり成長を見守っていこうとしていることを感じました。本年度お世話になったクラスでは

・「先生、(校庭へ)遊びに行ってきます。」という元気のよい子どもの声。

・「〇〇さん」とやさしく声をかけ、気になる子どもと話をしている担任の先生。

・課題が終わらず休み時間も取り組んでいる子どもとなりに座って見守る先生。

のような場面が見られました。

小中連携の一環として小中交流授業として何度か小学校へ行って授業を行った経験はありましたが、実際に小学校で実習を行うまで小学校の様子がよく分かりませんでした。今回、中学校教員として小学校での日常を経験できたことは貴重な経験でした。今後の教員生活に生かせるようにしたいと思います。



(2年 小川雅弘)

ちょうど3年前の1月の大学三年生の自分へ。

宇都宮大学教職大学院を受験すると決心してくれてありがとうございます。私はあと2か月弱で修了し、4月から教壇に立ちます。ここで過ごしたこの2年間はとても充実したもので、自信をもって次のステージに進むことができます。私は、あなたの3年前の決断のおかげで、三つの宝を得ることができました。

一つ目の宝は、「省察する心」です。キーワード「省察」が宇都宮大学教職大学院にはあります。授業や子どもたちの様子を振り返ることは、当然のことのようですが、それを実践できない自分がいました。しかし、この2年間で子どもたちの学びを中心に「省察」することが自然にできるようになったと思います。

二つ目の宝は、「信頼できる先生方との出会い」です。宇都宮大学教職大学院には、心から寄り添ってくださる先生方がいます。おかげで、私は自分の学びたいことに安心して取り組むことができました。また、連携協力実習校の素晴らしい先生方との出会いもありました。「常に子どもたちのために」という信念を学ぶことができました。

三つ目の宝は、「かけがえのない仲間」です。ここでは院生のことで、特に同期の3期生を指します。現職の方を「仲間」と呼ぶのは失礼かもしれませんが、そのくらい親密に同じ目線で、私たち学卒院生に接してくださいました。また、3期学卒院生の5人には本当に支えられ、同じ志をもってお互いに高め合うことができました。感謝しています。

改めて3年前の「自分」へ、宇都宮大学教職大学院を受験すると決めてくれてありがとうございます。そしてなにより、大学院に進学をさせてくれた両親に感謝してください。

(2年 伊藤 駿)

《編集・発行》宇都宮大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻(教職大学院)

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350番地 Tel: 028-649-5242

<http://www.edu.utsunomiya-u.ac.jp/koudoka/index.html>

◇教職大学院Facebook: <https://www.facebook.com/uuptnet> ※院生が編集し、教員が管理しているFacebookです。

